

重点推進方策Ⅱ

水田農業経営体の経営発展と実需者ニーズに応える高品質米生産 実需者ニーズに応える米生産

高品質米生産の推進 栽培管理指導とカメムシ対策

■背景とねらい

全県下で取り組む「1等米比率全国1位プロジェクト」に対応し、上伊那地域での米の品質向上を図るため、格落ち要因の課題に基づいた重点的な指導を行う。

■本年度の取組と成果

1 収穫作業等適期管理の徹底指導

伊那米総合試験地での水稻生育調査(6/4、14、24、7/4、16の5回)の結果をJA他関係機関に情報提供、水稻のDVIによる生育予測(7/7、15、28の3回)、収穫開始予測(8/14、24、9/5、20の4回)をHPに公開し、講習会等にも活用して適期収穫を呼びかけた。

本年度は7月下旬から9月にかけて著しい高温となり、出穂期及び成熟期が大幅に前進し、高温障害も懸念されたが、収穫時期が早められ顕著な品質低下とはならなかった。

2 斑点米カメムシ対策

斑点米カメムシの防除啓発を図るため、7月と8月に管内の水田と畦畔ですくい取り調査を実施した。主要加害種はホソハリカメムシ、次いでアカヒゲホソミドリカスミカメで、8月以降はアカスジカスミカメが見られるようになった。本年度は全般的にカメムシの発生が多かったが、昨年度、斑点米による品質低下が問題となった地区で、出穂期防除と追加防除の2回実施で被害の軽減が確認され、水田作検討会では次年度に向けて防除体系などの検討が行われた。

■今後の課題と対応

JA集荷の水稻うるち玄米の1等比率は93.1%で、目標をやや下回った。格落ち要因の比率は斑点米を含む着色粒が83.8%、胴割粒が13.5%で、斑点米カメムシ対策が重要である。

次年度も、1等米比率の維持向上を図るため、引き続き啓発指導を行い、対策を進める。

(技術経営係 福本)

雑草イネ防除対策の推進

■背景とねらい

上伊那管内の水田では、玄米が赤く、粳が脱粒しやすい雑草イネが発生している地域があり、収穫物への赤米の混入被害や発生の拡大が懸念されている。雑草イネの防除技術の普及指導や啓発など、防除関係機関と連携して対策活動を実施する。

■本年度の取組と成果

1 農薬試験展示ほの設置

飯島町の雑草イネ発生水田において、効果のある除草剤の3剤体系での効果試験を行った。

雑草イネの発生と埋設した水稻種子の出芽状況を合わせて4試験区の薬剤体系を評価し、無処理区と比較して効果が確認された。試験結果を元に雑草イネ対策指針の更新を行った。

2 雑草イネ発生状況調査

雑草イネ発生地域の状況を把握し、発生拡大防止等の対策に資するため、8月にJA及び市町村と連携して発生ほ場を調査により特定し、発生面積を推定した。昨年と比べ発生面積は減少したが、多発ほ場が増加しており、発生ほ場の耕作者に対しては市町村やJAから通知による啓発を行った。

3 上伊那地域雑草イネ対策会議

7月の上伊那地域米政策担当者会議の中で雑草イネ対策会議を開催、JA、市町村と対策についての意見交換を実施、方針を確認して体制整備を図るとともに、対策の実施方法などを共有した。

■今後の課題と対応

これまでも雑草イネ対策が進められ、減少している地域もあるが、多発ほ場も散見され、転作指導など水田活用も考慮した対策を検討していく。

(技術経営係 福本)

優良水稻種子の安定供給

■背景とねらい

「長野県主要農作物及び伝統野菜等の種子に関する条例」(令和2年4月1日施行)のもと策定された「長野県主要農作物種子生産ビジョン」に基づき、確実な優良種子生産に向けて採種技術に係る現地指導や巡回等に取り組んだ。

■本年度の取組と成果

1 活動内容

(1) 指導会・現地巡回

ア 指導会等

栽培指導会を6月17日(生産者27名参加)、収穫祭を12月17日(生産者24名参加)に実施した。栽培指導会では、新規生産者にも配慮し、基本的な栽培管理から異系抜きなどの採種技術指導まで行った。

イ 現地巡回指導

イネばか苗病への警戒のほか、健全な苗生産のため苗間巡回を2回に分けて実施し、育苗指導を行った。特にばか苗病やもみ枯れ細菌病といった種子伝染性病害等の大きな問題はなく、田植えは順調に行われた。

(2) 種子生産に係る審査

ア ほ場審査

早生品種のあきたこまち・ひとめぼれと中生品種のコシヒカリで2回に分けて実施した。

イ 生産物審査(発芽試験)

発芽試験を100粒4反復/1ロットで実施し、すべてのロットで審査基準を満たし、全量合格とした(表2)。

しかし、種子の粒厚が十分ではなく、調製前では基準以下のものが4~5割と多く、種子の充実が課題となった。

■今後の課題と対応

種子の充実が喫緊の課題であり、今年度は追肥試験を採種部会と連携し行った。次年度も追肥試験を継続し、充実した種籾の生産に向け支援する。

次年度は優良種子の安定生産を当センターの重点活動課題に位置付け活動を計画している。現行の巡回審査・技術指導に加え、種子生産農家への聞き取りや定点調査をし、生産管理について把握する。より信頼性の高く安定的な種子生産体制の整備に向けて努めていく。

(地域第二係 坂本)

表1 採種ほ場審査結果

品種	筆数	第一次ほ場審査		第二次ほ場審査		最終合格率 (%)
		実施日	合格筆数	実施日	合格筆数	
あきたこまち	173	7/26	173	8/22	173	100
ひとめぼれ						
コシヒカリ	27	8/5	27	8/28	27	100

表2 生産物審査結果

品種	ロット数	発芽試験結果		
		合格率 (%)	発芽率 (%)	発芽率の最低限度 (%)
あきたこまち	10	100	98.7	90
ひとめぼれ				
コシヒカリ	30	100	98.6	90